

Q.好きな言葉は？
一生懸命、私の信念です。



山口貴裕
厚木市長

プロフィール
やまぐち たかひろ
1973年厚木市生まれ。
温水在住。厚木小・厚木中
学校卒業。市・県議会議員
を経て、2023年2月に第6
代厚木市長に就任



1



3



4

Q.子どもの頃の夢は？

A.プロ野球選手(原辰徳選手に憧れて)

Q.好きな食べ物は？

A.厚木のホルモン、とん漬、鮎

Q.最近一番うれしかったことは？

A.高齢者にも優しいまちにしてくれてありがとうと言われたことです。

Q.1週間休みがあったら何をしますか？

A.市長に就任してから全く行っていないので、家族と旅行やBBQに行きたいです。

Q.厚木の強みは？

A.5つのICを有する全国的な交通の要衝であるが故に、世界に名高い企業や研究所、5つの大学が立地していること。

Q&A

厚木市全景



市長の好きな場所
大山が一望できる
ぼうさいの丘公園

市長の好きなイベント
市民朝市(毎週参加です)

市長の好きなイベント
あつぎ鮎まつりの花火
打ち上げポイント

みんなに憧れを抱かれるまちへ

私は就任当初から、「厚木愛炸裂」を掲げ、このまちに眠っている可能性を掘り起こし、市民の皆さんが誇りをもち、住んで良かった、住み続けたいと感じられる、魅力あふれるまちとして磨き上げていく強い決意で市政運営にまい進してきました。「まずはやりたい8つの政策」として、小・中学校の給食費無償化、18歳までの医療費無償化、高齢者バス割引乗車券「かなちゃん手形」や高齢者タクシー利用券の助成額の大幅拡大など、①安心して子育てできる環境の充実や高齢者の外出支援に取り組むとともに、私が掲げる県央姉妹都市構想を契機に、秦野市、伊勢原市、愛川町、清川村と「県央やまなみ地域における広域連携の強化に関する協定」を締結し協議会も設立。近隣自治体や企業・大学と緊密な連携体制を構築するなど、スピード感を持って事業を進めています。

また、多くの皆さんから期待を寄せられている、本厚木駅北口の生まれ変わりは、周辺を面として捉え、魅力あふれる厚木の玄関口を目指すため、再開発準備組合への支援や図書館、(仮称)未来館、市庁舎などからなる複合施設の建設など、一体的に取り組んでいます。さらに、本市の充実した都市基盤整備を計画的に進めるため、新たな土地区画整理事業に取り組んでいただく地権者の皆さんの支援も実施していきます。その他、文化会館のリニューアルオープンを契機に、皆さんの文化芸術活動を支援するとともに、一流の文化芸術に触れ、身近に感じることで、自分もやってみたいと思えるような機会を多く設けていきます。さらに、身近にスポーツを観戦し、プレーできる施設の計画や、バスケットボールなどのプロチームとの協定による市内での大会開催などを通じて、「スポーツ、文化・芸術、歴史の聖地づくり」を進めていきます。

記憶に残る70周年に

市制70周年を迎えるに当たっては、「未来へ一歩 つながる あつぎ70年」というキャッチフレーズ、アユ、花火をモチーフにしたロゴマーク、市にとって普遍的なものである市章と市の花サツキをあしらったラッピングバスなどで、機運を高めてきました。キャッチフレーズは131点、ロゴは698点の応募があり、多くの皆さんに厚木のことを考えていただけたことを、大変うれしく思っています。②ラッピングバスもとてもかわいらしいデザインで、お披露目した「あつぎ鮎まつり」のオープニングパレードの際も、記念撮影をされている方がたくさんいらっしゃいました。市制70周年をお知らせするとともに、市章や市の花を改めて市民の皆さんに知っていただく良いきっかけになったと思います。また、この記念誌の表紙にもなっている作品を、市内出身のアーティスト・井上純さんに手がけていただきました。③創作の現場にも伺い、真剣なまなざしでキャンバスに向かわれている姿を拝見し、私も心を動かされるものがありました。作品は2月3日から、市役所本庁舎に展示しますので、多くの皆さんに見ていただきたいと思います。

2月1日の記念式典、それを皮切りに始まる記念イベントに向けては、市制70周年記念事業実行委員会の皆さんに、式典・広報・交流・スポーツ・文化の5部会に分かれ、2023年6月から準備を進めていただきました。この場を借りて、感謝を申し上げます。記念イベントへの参加などを通じて、皆さんの記憶に残る70周年になればと願っています。加えて、④市内を舞台にした映画「キリコのタクト〜YELL〜」の製作も発表され、市は70周年記念事業の一環として支援しています。市民の皆さんを対象にしたオーディションやエキストラの募集も行っており、2025年3〜9月に撮影し、26年春の公開を目指しています。70周年の節目に、多くの皆さんの記憶に残り、市の魅力が伝わる作品になることを期待しています。

「あつぎ愛」をつなぐ

今の厚木市があるのも、70年もの間、多くの皆さんが熱い思いを込めて、ふるさと厚木というたすきをつなげてきた結果です。私の使命は、厚木の歴史、熱い思い、そして汗が染み込んだたすきを、市民の皆さんと共に次の世代へつなげていくことだと強く感じています。市を取り巻く環境は刻々と変化を続けています。市政のかじ取り役として、目指すまちづくりの方向性を示すため、現在、2026年度から35年度までを計画期間とする、新たな総合計画の策定を進めています。策定に向けては、皆さんが思い描く「未来のあつぎ」をかたちにするため、中学生・高校生・女性・高齢の方などによるワークショップを開催しました。ワークショップで頂いたアイデアなどを生かしながら今後のまちの方向性を示す総合計画を策定し、ふるさと厚木のたすきを未来へとつなげられるよう、市民の皆さんと共に、さらなる厚木の発展と、誰もが誇りに思えるまちづくりを進めていきます。

市長
インタビュー

あつぎ愛をうけつなぐ、誇れるまちに。

市長の愛読書「君たちがいる生きている」
UNITING OUR LOVE FOR ATSUGI